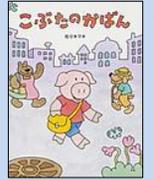




こぶた・たぬき・きつね・ねこ

はにゅうしりつとしゃかん

【こぶた・たぬき】

<p><b>「そよかぜさん」</b> たちもと みちこ // 作・絵 教育画劇 Eソ</p>  <p>こぶたちゃんが洗濯物を干していると、そよそよさわさわ、ひゆるるるるる〜ん。こぶたちゃんのブラウス、どこに飛んでいったのかな？</p>	<p><b>「たぬきがのったらへんしんでんしゃ」</b> 田中 友佳子 // 作・絵 徳間書店 Eタ</p>  <p>電車のまじめさんが、はじめて「びっくり線」を走ります。お客は、たぬきの団体さん。線路にいるんなばけものが現れるたびに…。</p>
<p><b>「げんこつやまのたぬきさん」</b> 長野 ヒデ子 // 作・絵 のら書店 Eゲ</p>  <p>げんこつやまのたぬきさん おっぱいのでねんねして だっこしておんぶして またあしたわらべうたが歌って踊れる絵本になりました。うさぎさんや、おつきさまも歌って…。</p>	<p><b>「こぶたのかばん」</b> 佐々木 マキ // 作 金の星社 Eコ</p>  <p>こぶたのぐぶたは、買ったケチャップも、拾った木の枝や機械の部品も、みんな黄色のかばんにしまっていきます。するとかばんはどンドンふくらんで…。</p>

<p><b>「ぶひぶひこぶたものがたり」</b> かさい まり // 作・絵 ひさかたチャイルド Eフ</p>  <p>ぶたの母さん、朝からおおどろきで大忙し。だって子どもが14匹もいるんだもの。一匹泣けば、みんなが泣き出し、誰か迷子になれば、なかなかみつからないし。でも、みんなが元気なことが何よりの幸せ…。</p>
--

<p><b>「たまたまタヌキ」</b> 内田 麟太郎 // 文 高島 那生 // 絵 校成出版社 Eタ</p>  <p>「おれは、まことにタヌキであろうか」さまざまなものに化けてきたタヌキがカラスに聞くと、カラスは、たまたまタヌキなだけで、本当はもっと偉大なものだという。タヌキは坐禅を組み、偉大なものを思い続け…。</p>
---

【きつね・ねこ】

<p><b>「さよならともだち」</b> 内田 麟太郎 // 作 降矢 なな // 絵 偕成社 Eオ</p>  <p>オオカミはきつと「さよならは、さびしいばかりじゃないんだぜ」と思っている。キツネにもちよつとそれがわかり…。「ともだちや」をはじめる前の、キツネとオオカミのお話。</p>
---

<p><b>「ねこじたなのにお茶がすき」</b> 今江 祥智 // 文 ささめや ゆき // 絵 淡交社 Eネ</p>  <p>名なしの子猫が母さんに連れて行かれたのは、気むずかしそうなじいさまの家。じいさまは、猫たちにお茶をたててくれて…。</p>
--

<p><b>「きつねみちは、天のみち」</b> あまん きみこ // 作 松成 真理子 // 絵 童心社 Eキ</p>  <p>ともこがにわか雨の中を走っていると、いきなり雨がやみ、雨に長いすきまができて、カーテンみたいになりました。ともこはそこで、すべり台をかついだきつねたちに会い…。</p>
---

<p><b>「ねことねこ」</b> 町田 尚子 // 作 こぐま社 Eネ</p>  <p>黒いねこ、白いねこ、茶色いねこ…。1匹1匹全然ちがう、ねことねこ。だけど、よおーく見てみて。おなじところはどこかな？</p>
--

<p><b>「ねこのずかん」</b> 大森 裕子 // 作 今泉 忠明 // 監修 白泉社 Eネ</p>  <p>ねこと仲良くなりたいたい？ それなら、ねこに会いに行こう！ねこの種類から、ねこ語、ねこ友だちになる方法まで、ねこのことがわかる図鑑。</p>
--

<p><b>「げんきにおでかけ」</b> 五味 太郎 // 作 童心社 Eケ / ハジテ</p>  <p>きつねの子が元気におでかけ。くいや木など、いろんなものに「どん」とぶつかりますが、調子は上々で…。</p>
---

<p><b>「ノラネコぐんだんパンこうじょう」</b> 工藤 ノリコ // 著 白泉社 Eノ</p>  <p>ワンワンちゃんのパン工場には、おいしそうなパンがいっぱい。パンを作るところをのぞき見していたノラネコ軍団は、夜中に工場に忍び込んで、見よう見まねでパンを作りはじめたけれど…。</p>
---

<p><b>「きつねのがっこう」</b> いもと ようこ // 作 講談社 Eキ</p>  <p>なくしたスマホを探していたら、いつのまにかきつねになっていた男の子は、こぎつねと一緒にきつねの学校に行くことになり…。</p>
---